

皮膚科卒後臨床研修カリキュラム

基本期間を3ヶ月(一単位)とし、二期以上も可能である。

基本目標

1) 一般教育目標

- a. 患者様の視点に立った診療を目指し、教室員と共に研修に努める。
- b. 病気を治すといった、医師にありがちな思い上がりはやめて、患者様の全体的治癒・改善になにができるかを日々考える研修をする。
- c. 皮膚科疾患の実際の診療のを深化させ、主要な皮膚疾患の臨床的特徴を把握し、類症を鑑別した上で正しい診断を下しうるための技能、態度を習得する。

2) 個別行動目標

- a. 二単位以上の場合を記すが、一単位の場合は表層的な研修にならざるを得ない。
 - (1) 皮膚疾患の臨床的特徴・病理組織学の正確かつ詳細な記載。
 - (2) 適切な鑑別診断および鑑別するための方法。
 - (3) 遺伝子診断、免疫病理学的検査などのルーチンワーク。
 - (4) アレルギー疾患、膠原病などの診断から治療決定までのプロセス。
 - (5) 皮膚外科、美容皮膚科、熱傷処置、褥瘡の基本的手技・知識。
- b. 皮膚科入局を決めている場合は、皮膚科専門医を取得するために、皮膚科学会入会、学会発表や論文作成指導を行う。専門医取得のための、日本皮膚科学会講習会への参加に便宜を計る。
- c. 大学院(皮膚科)進学希望者は、早めに古川福実に連絡すること。研究テーマや研究機関について相談する。

II. 指導教官

教授(古川: 膠原病、アトピー性皮膚炎、血管炎、治療学一般)

助教授(上出: 皮膚外科、免疫病理、皮膚腫瘍、治療学一般)

講師(大谷: 薬疹、遺伝子診断、血管炎)

助手(山本: 皮膚外科、ケミカルピーリング)

助手(西出: 乾癬、褥瘡、熱傷)

助手(岸岡: アレルギー疾患)

助手(貴志: レーザー治療、腫瘍治療、皮膚外科)

助手(吉益: アレルギー疾患) なお、米国の CaseWestern

Reserve University の皮膚科で研究中(アレルギー炎症、膠原病)

非常勤講師(高木: 形成外科) 月一回

非常勤講師(宮崎: 美容皮膚科) 月一回

非常勤講師（金原：皮膚科学一般）隔週

III. スケジュールの解説

- (1) 皮膚科外来にて新規患者の予診を取り、診断をつけた上で、必要な検査、処置の助手を行う。遅刻は厳禁。また、入院患者の主治医となって、熱傷、水疱症、植皮後などの皮膚科的処置を必要とする患者について、指導医とともにその処置にあたり処置の実際を学ぶ。
- (2) パッチテスト、紫外線治療、レーザー治療、ケミカルピーリング、生検、検鏡検査、光線過敏症検査、手術など皮膚科独特の診断、治療について研修し、その結果や意味を患者様や指導医に説明できる。
- (3) インフォームドコンセントについて、その本質を学ぶ。
- (4) 教室主催の講演会、市民公開講座などの行事は総て参加すること。
- (5) 二単位以上のコースとして、
 - 1) アレルギー疾患
 - 2) 皮膚外科・形成外科
 - 3) ケミカルピーリング、
 - 4) レーザー
 - 5) 褥瘡・熱傷などを設定する。1または2を希望することが出来る。
3～5については、選択コース担当者から別途指示する。従って、各自少なくとも2つ以上のコースの研修を行う。具体的内容は、入院患者や外来患者の診療状況によって臨機応変に設定する。

IV. 評価

診療全般にわたり、指導医が評価する。